



## Osaka Gakuin University Repository

Title	総合科目（ワールド・ツアーに出かけよう！）における「ドイツ語」の実践報告 — 2008～2014年度の7年間を経て、8年目の2015年度へ Praxis-Bericht des Deutschunterrichts in der Vorlesung „Sogo-kamoku (Machen wir eine Weltreise!)“ — Durch die sieben Jahre 2008-2014 bis achttes Jahr 2015
Author(s)	神谷 善弘 (Yoshihiro Kamiya)
Citation	大阪学院大学 外国語論集 (OSAKA GAKUIN UNIVERSITY FOREIGN LINGUISTIC AND LITERARY STUDIES), 第69号: 19-33
Issue Date	2015.6.30
Resource Type	Research Note/ 研究ノート
Resource Version	
URL	
Right	
Additional Information	

# 総合科目 (ワールド・ツアーに出かけよう!) における「ドイツ語」の実践報告 — 2008~2014年度の7年間を経て、8年目の2015年度へ

神 谷 善 弘

本原稿は、2015年2月27日に開催された大阪学院大学外国語学会での口頭発表『総合科目 (ワールド・ツアーに出かけよう!) における「ドイツ語」の実践報告—2008年度~2014年度の7年間を振り返って』をもとに書き上げたものである。

## 1. はじめに

大阪学院大学の全学共通科目「総合科目 (ワールド・ツアーに出かけよう!)」(以下「ワールド・ツアー」) は、2015年度現在、フランス語、ドイツ語、英語、中国語、韓国語の教員5名が、それぞれの言語と社会や文化について、3回ずつのリレー形式で講義を行っている。

大阪学院大学は、2015年度現在、商学部、経営学部、経済学部、法学部、外国語学部、国際学部、情報学部の7学部から成っているが、「ワールド・ツアー」は、全ての学部の1~2年次の学生が履修することのできる、半期15コマ2単位の全学共通科目である。

## 2. 「ワールド・ツアー」の概要

### 2.1. 到達目標

シラバスに掲げている「ワールド・ツアー」の到達目標は、次の2点である。

- (1) それぞれの言語の特徴や社会的・文化的背景などを学び、国際社会を生き抜くための最低限必要な知識、幅広い視野を身に着けることを目標とす

る。

- (2) 各言語で簡単な挨拶ができるようになると同時に、英語以外の言語の知られざる「魅力」も学び、次学期以降における各言語の履修につなげる。

## 2.2. 評価基準

評価基準は、2010年度以降は「定期試験50%（各言語10%ずつ）、日常点50%」としている。（2008～2009年度については後述する。）

## 2.3. 教科書、参考書、参考サイト

教科書は、初年度の2008年度以来使用せず、各教員がプリントを配布している。

参考書については、2008年度は示さなかったが、2009年度より、西村淳子（監修）『多言語多文化学習のすすめ ― 世界と対話するために ―』（朝日出版社、2008年）を掲げており、講義中に付属のCDを流す等の方法により、学生に推薦している。

同書は、多言語多文化社会を垣間見るための入門書である。フランス語、ドイツ語、英語、スペイン語、イタリア語、中国語、韓国・朝鮮語、日本語の8つの言語の特徴紹介と、それぞれの文化的背景や文化間交流についての解説がある。大まかではあるが、8言語8文化を比較することができ、すぐに使える「便利な一言100の表現」などもそれぞれの8言語（仏、独、英、西、伊、中、韓、日）で付属CDに収録されている。

参考サイトとしては、それぞれの国の大使館ホームページや「地球の歩き方」サイト（<http://www.arukikata.co.jp/>）を示すようにしている。

## 2.4. 「ワールド・ツアー」で扱う言語

「ワールド・ツアー」で扱う言語は、初年度（2008年度）の3言語から始まり、2012年度以降は5言語となっている。詳細を以下に示す。

2008～2009年度	フランス語、ドイツ語、英語
2010～2011年度	フランス語、ドイツ語、英語、中国語
2012年度以降	フランス語、ドイツ語、英語、中国語、韓国語

### 3. 講義の内容

#### 3.1. 講義スケジュール

2015年度前期の「ワールド・ツアー」の講義スケジュールを示す。

第1回	<b>Introduction</b> 中国編(1) 中国語と中国観光
第2回	中国編(2) 北京・上海周辺の見どころを調べる
第3回	中国編(3) アバターと張家界・黄山、さまざまな中国語
第4回	フランス編(1) 国際語としてのフランス語
第5回	フランス編(2) フランス語の歴史・フランス語と英語、スペイン語などとの関係
第6回	フランス編(3) フランス語のあいさつ、特徴
第7回	ドイツ編(1) 挨拶表現／ドイツ語を話す国々
第8回	ドイツ編(2) ホテルのチェックイン／ドイツにおける日本文化
第9回	ドイツ編(3) レストランでの注文／ドイツの食文化
第10回	アメリカ編(1) New York Travel Immigration Students will also learn how to fill out forms for immigration and present passports. Each student will also be assigned to write one page for a travel guide for New York.
第11回	アメリカ編(2) Manhattan Tour 1 Students will join a PowerPoint tour of the ten most famous sites on Manhattan Island.
第12回	アメリカ編(3) Manhattan Tour 2 Students will continue the tour, studying New York songs, movies, and sports.

第13回	韓国編(1) 知られざるソウルの穴場
第14回	韓国編(2) 韓流ドラマのセリフ、こんな意味だった
第15回	韓国編(3) 5年ごとに変わる韓国社会
第16回	定期試験(筆記試験)

参考までに、5回ずつのリレー講義であった初年度(2008年度前期)のドイツ編のスケジュールも示しておく。

第1回	ドイツ編(1) ドイツ語の挨拶表現/ドイツ語を話す国々
第2回	ドイツ編(2) 自己紹介表現/日本語の中のドイツ語
第3回	ドイツ編(3) ホテルのチェックイン、アウト/ドイツにおける日本
第4回	ドイツ編(4) レストランでの注文/ドイツの食文化
第5回	ドイツ編(5) お土産の買い方/英語とドイツ語の比較(歌)

### 3.2. 講義の内容(ドイツ編)

2015年度前期現在、筆者が3コマ分を担当しているドイツ編の講義の流れは、以下の通りである。

- (Ⅰ) ドイツ語圏の映像を鑑賞し、その感想を書かせる
- (Ⅱ) ドイツ語・ドイツ語圏に関するクイズを行う
- (Ⅲ) ドイツ語入門として、簡単な表現を学ばせる
- (Ⅳ) クイズとドイツ語入門の感想を書かせる

ドイツ語圏の映像は、テレビ番組(NHK『テレビでドイツ語』の文化コーナー、フジテレビ系列『にじいろジーン』の「ジーンちゃんがキキコミ!世界ピカイチ☆ツアー」というコーナー、テレビ朝日系列『旅サラダ』の「海外の旅」というコーナー等)の録画や市販のDVD(ドイツ語圏の名所、お買い物スポット、食文化、クリスマスマーケット等がテーマのもの)を使用している。

クイズは PowerPoint を用いて、毎回 5 問実施している。以下にその例を示す。

クイズ例 1

ドイツ語はどっち？

- ① ä ö ü ß ② é è ê œ

クイズ例 2

「こんにちは」をドイツ語で言うと…？

- ① Guten Morgen! ② Guten Tag! ③ Guten Abend! ④ Gute Nacht!

クイズ例 3

ドイツ語を公用語としている国は、ドイツ、オーストリア、スイス、ベルギー、リヒテンシュタイン、ルクセンブルクの中でいくつあるか？

クイズ例 4

ドイツの人口は日本よりも多い。○か×か？

クイズ例 5

日本の消費税は 8% であるが、ドイツの消費税（付加価値税）は？

- ① 10% ② 13% ③ 16% ④ 19%

クイズ例 6

ドイツが接している国の数はいくつあるか？

クイズ例 7

ドイツでは、12月26日は祝日である。○か×か？

クイズの正解

1 ①

2 ②

3 ドイツ、オーストリア、リヒテンシュタインはドイツ語のみ、ルクセンブルクはフランス語とドイツ語の 2 言語、ベルギーはオランダ語、フラ

ンス語、ドイツ語の3言語、スイスはドイツ語、フランス語、イタリア語、ロマンシュ語の4言語が公用語である。従って、正解は6つ。

4 ×

5 ④ (食料品等の軽減税率有)

また、ドイツにおける日本文化に関しては、漫画やアニメを扱っている。例えば、「ドラゴンボール」「セーラームーン」の単行本の日本語版とドイツ語版の比較やDVDアニメの鑑賞（ドイツ語吹き替えバージョンとドイツ語字幕付きバージョンの上映）を行っている。

2016年度には、ドイツ人漫画家の Carolin Eckhardt (カロリン・エックハルト) 著『奥様 Guten Tag!』(集英社、第1巻2013年刊行、第2巻2014年刊行)を扱うことを予定している。因みに、この漫画は、「大学生と読売新聞が作る Campus Scope (Autumn 2015 vol.36)」のインタビュー記事で紹介されている。

そして、ドイツ語入門として学ぶ表現は、以下の通りである。

#### 挨拶表現

Guten Morgen! / Guten Tag! / Guten Abend! / Auf Wiedersehen!

#### 自己紹介表現

Wie heißen Sie? – Ich heiße \_\_\_\_\_.

Woher kommen Sie? – Ich komme aus \_\_\_\_\_.

Wo wohnen Sie? – Ich wohne in \_\_\_\_\_.

#### 数詞

0～29をしっかりと練習し、30～100を概観する。

レストランでの注文に関しては、担当者の顔を覚えることが大切であること、水 (Mineralwasser) は注文するものであること等を説明し、語彙や表現

としては、Speisekarte（メニュー）、Menü（定食）、Ich möchte zahlen!（お勘定をお願いします。）等を教えている。

参考資料：配布プリントを3種類

### ドイツ語で挨拶

(1) おはようございます。

グー テン モル ゲン

**Guten Morgen!**

(2) こんにちは。

グー テン ターク

**Guten Tag!**

(3) こんにちは。

グー テン アー ベント

**Guten Abend!**

(4) さようなら。

アウフ ヴィー ダー ゼー エン

**Auf Wiedersehen!**

### ドイツ語で自己紹介

(1) あなたのお名前は？

ヴィー ハイ セン ズィー

**Wie heißen Sie?**

私の名前は \_\_\_\_\_ です。

イヒ ハイ セ

**Ich heiße \_\_\_\_\_.**

(2) 出身はどこですか？

ヴォー ヘア コ メン ズィー

**Woher kommen Sie?**

私は \_\_\_\_\_ 出身です。

イヒ コ メ アウス

**Ich komme aus \_\_\_\_\_.**

(3) どこに住んでいますか？

ヴォー ヴォー ネン ズィー

**Wo wohnen Sie?**

私は \_\_\_\_\_ に住んでいます。

イヒ ヴォー ネ イン

**Ich wohne in \_\_\_\_\_.**



## ドイツ語の数詞 0～20

ヌル	null	0				
アインス	eins	1			空欄を埋めてみよう！	
ツヴァイ	zwei	2			↓↓↓↓↓↓↓↓	
ドライ	drei	3	ドライ	ツェーン	dreizehn 13	
フィーア	vier	4	フィル	ツェーン	_____ 14	
フュンフ	fünf	5	フュンフ	ツェーン	_____ 15	
ゼクス	sechs	6	ゼヒ	ツェーン	sechzehn 16	
ズィー	ben	sieben	7	ズィーブ	ツェーン	siebzehn 17
アハト	acht	8	アハ	ツェーン	_____ 18	
ノイン	neun	9	ノイン	ツェーン	_____ 19	
ツェーン	zehn	10	ツヴァン	ツイヒ	zwanzig 20	
エルフ	elf	11				
ツヴェルフ	zwölf	12				

## ドイツ語の数詞 21～29/30, 40, 50, 60, 70, 80, 90, 100

アイン	ウント	ツヴァン	ツイヒ	ein <u>und</u> zwanzig	21	
ツヴァイ	ツヴァン	ウント	ツイヒ	zwei <u>und</u> zwanzig	22	
ドライ	ウント	ツヴァン	ツイヒ	_____	23	
フィーア	ウント	ツヴァン	ツイヒ	_____	24	
フュンフ	ウント	ツヴァン	ツイヒ	fünf <u>und</u> zwanzig	25	
ゼクス	ウント	ツヴァン	ツイヒ	sechs <u>und</u> zwanzig	26	
ズィー	ben	ウント	ツヴァン	ツイヒ	sieben <u>und</u> zwanzig	27
アハト	ウント	ツヴァン	ツイヒ	_____	28	
ノイン	ウント	ツヴァン	ツイヒ	_____	29	

ドライ	スイヒ	drei <u>ßig</u>	30	ズィープ	ツイヒ	siebzig	70
-----	-----	-----------------	----	------	-----	---------	----

フィル	ツイヒ	_____	40	アハ	ツイヒ	achtzig	80
フュンフ	ツイヒ	_____	50	ノイン	ツイヒ	neunzig	90
ゼヒ	ツイヒ	sechzig	60	フン	デルト	hundert	100

#### 4. 「ワールド・ツアー」をはじめた経緯

「ワールド・ツアー」は、(2005年10月に発足した)大阪学院大学ランゲージセンター運営委員会の提唱である。なお、筆者は発足当時から現在まで、ドイツ語教員として運営委員を務めている。

##### 4.1. 大学設置基準の大綱化と大阪学院大学の外国語教育改革

さて、日本の多くの大学では、1991年の文部科学省による「大学設置基準の大綱化」の影響で、外国語科目の卒業要件単位数が少なくなっている。

外国語科目に関する大綱化の内容は、「各大学・短期大学に開設を義務づけていた授業科目の科目区分（一般教育科目、専門教育科目、外国語科目及び保健体育科目）を廃止する」「学生の卒業要件として定められていた各科目区分ごとの最低修得単位数（大学の場合、一般教育科目36単位以上、専門教育科目76単位以上、外国語科目8単位以上、保健体育科目4単位以上）を廃止し、総単位数（大学の場合、124単位以上）のみ規定するにとどめる」である。

大綱化の流れを受け、大阪学院大学では2004年度に「現行の履修規程を改正し、“学部横断的な横型履修形態”、“専攻する所属学部の学問を深く学ぶ縦型履修形態”のいずれの履修をも可能とする規定に改める」という改革の方向性が示され、共通科目「言語と文化」の履修規程の1言語（外国語学部と国際学部は2言語）のみの制限枠を撤廃し、2005年度入学生からは、学生が希望する外国語の複数履修および修得単位を卒業単位数に充当できる履修規程に改正することにした。

その結果、筆者の所属する外国語学部英語学科では、共通科目「言語と文

化」の卒業要件単位が、2004年度入学生までは14単位（例えば、英語10単位＋フランス語4単位、ドイツ語10単位＋英語4単位、中国語10単位＋スペイン語4単位のように、英語、ドイツ語、フランス語、中国語から2言語を選択必修）だったものが、2005年度入学生以降は英語以外の1言語4単位に減っている。（2015年度現在、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語から1言語4単位が必修である。）

外国語を主体的にしっかりと学びたい学生にとっては、良い制度であると言えるが、実際には1言語4単位（〇〇語入門Ⅰ＋〇〇語入門Ⅱ）のみで卒業していくケースが多く、中級以上のクラスの履修者が少ないのが現状である。

#### 4.2. 「ワールド・ツアー」の開講

英語以外の外国語教育の活性化として、入門クラスの履修者を増やしていくための方策として考えられたのが「ワールド・ツアー」である。すなわち、多様な言語に触れることにより、少しでも関心を持ってもらい、英語以外の外国語の履修者を増やしていこうという教育的な試みである。

ランゲージセンター運営委員会では、2006年度に議論を始め、2007年度に「言語文化入門」（仮称）として企画が具体化し、数回の意見交換を経て、「ワールド・ツアー」を「総合科目」として新設する方向が定まった。最終的には、英語教員、ドイツ語教員、フランス語教員が、共同で英独仏の3言語で前・後期に1コマずつ開講することを提案し、新入生向けのパンフレットを作成する等、教務部及びランゲージセンターの支援により企画・運営することができている。

本講義の開設の目的は、英語以外の言語の履修者を増やすためである。教育的な見地では、多言語・多文化（複言語・複文化）を体験することにより、幅広い視野、教養を身に付けることができると考えたからである。

## 5. 問題点と成果

### 5.1. 担当者について

科目の性質上、担当者は専任教員が望ましいが、中国語と韓国語は、殆ど非常勤講師に頼っている。例えば、2015年度前期は、ドイツ語とフランス語のみが専任教員で、英語、中国語、韓国語は非常勤教員である。また、2015年度後期は、英語、ドイツ語、フランス語が専任教員で、中国語と韓国語は非常勤講師である。

### 5.2. 受講者数について

2008年度は前期158名、後期469名、2009年度は前期42名、後期264名とばらつきが大き過ぎたので、評価基準の見直し、クラス増を経て、1～2年次限定の科目とした。

その結果、2010年度は前期67名、後期156名、187名、2011年度は前期64名、後期169名、159名、2012年度は前期92名、後期153名、141名、2013年度は前期112名、後期164名、170名、2014年度は前期131名、後期105名、96名、2015年度は前期80名、後期70名、67名と安定した人数となっている。

「ワールド・ツアー」受講者数の推移（2008～2015年度）

	年度	前期	後期	
仏 独 英	2008	158	469	
	2009	42	264	
仏 独 英 中	2010	67	156	187
	2011	64	169	159
仏 独 英 中 韓	2012	92	153	141
	2013	112	164	170
	2014	131	105	96
	2015	80	70	67

### 5.3. 評価基準について

評価基準は、2008年度がレポート30%、日常点70%、2009～2010年度がレポート30%、日常点20%、定期試験50%、2011年度以降は日常点50%、定期試験50%である。

履修者数が多いので、日常点に関わる小テスト、レポートの確認作業が煩雑である。

定期試験は、初めは論述形式で採点が大変だったが、現在はマークシート方式（4択）で採点に関する負担は低くなっている。

## 6. 今後の展望

大阪学院大学では、共通科目「言語と文化」の分野に、「英語」「ドイツ語」「フランス語」「スペイン語」「中国語」「韓国語」「日本語（留学生用）」が開設されている。そこで、将来的には、「ワールド・ツアー」に「スペイン語」を加えるべきと提案をしている。

また、現在は前期1クラス、後期2クラスの合計3クラスのみの開講だが、履修希望者が増える、適任の担当者が見つかる等の条件が整えば、将来的にクラス数を増やしたいと考えている。

今後も、自己点検（PDCA）を繰り返し、大阪学院大学の「ワールド・ツアー」を発展させていきたいと考えている。

## 7. 終わりに

日本における外国語教育の積年の課題解決をめざし、2012年12月3日に「一般社団法人日本外国語教育推進機構 Japan Council on the Teaching of Foreign Languages (JACTFL)」が設立されたが、筆者はその発起人であり、理事も務めている。

JACTFLの2015年シンポジウムは3月8日に上智大学で開催されたが、午後の分科会で「多言語活動の事例紹介資料」が配布された。筆者も「ワール

ド・ツアー」の事例を提供したので、その資料を最後に示すことにより、本稿を終えたいと思う。

なお、JACTFL 及び上記シンポジウムに関しては、以下の URL にアクセスされたい。

JACTFL ホームページ：<http://www.jactfl.or.jp/>

2015年3月8日 JACTFL シンポジウム：「多言語活動の事例紹介資料」

学校名／団体名	大阪学院大学
所在地・URL など	大阪府吹田市岸部南2-36-1 <a href="http://www.osaka-gu.ac.jp/">http://www.osaka-gu.ac.jp/</a>
対象としている言語 ○をつけてください	○中国語    ○韓国語    ○フランス語    ○ドイツ語 スペイン語    ロシア語    その他（具体的に：○英語）
対象としている学年等	1～2年次
活動の内容や特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全学共通科目の「総合科目（ワールド・ツアーに出かけよう！）」では、<u>中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、英語の教員5名が、それぞれの言語と社会や文化を、3回ずつのリレー形式で講義している。</u></li> <li>・ 到達目標：1) それぞれの言語の特徴や社会的・文化的背景などを学び、国際社会を生き抜くための最低限必要な知識、幅広い視野を身に着けることを目標とする。 2) 各言語で簡単な挨拶ができるようになると同時に、<u>英語以外の言語の知られざる「魅力」も学び、次学期以降における各言語の履修につなげる。</u></li> <li>・ 評価基準：定期試験50%（各言語10%ずつ）、日常点50%</li> <li>・ 教科書：プリントを配布する。</li> <li>・ 2006年度に議論を始め、2007年度に企画し、2008年度に仏独英の3言語で開始する。2010年度に中、2012年度に韓が加わり、現在に至る。（2015年度も中韓仏独英の5言語）</li> </ul>

活動をはじめた経緯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ランゲージセンター運営委員会の提唱である。フランス語教員、英語のネイティブスピーカー教員、ドイツ語教員が共同で提案し、教務部の支援により企画することができた。</li> <li>・活動の目的は、英語以外の言語の履修者を増やすためである。</li> <li>・教育的には、多言語・多文化を体験することにより、幅広い視野、教養を身に付けることができると考えたからである。</li> </ul>
活動を実施していく上での問題点・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者は専任教員が望ましいが、中国語と韓国語は殆ど非常勤講師に頼っている。</li> <li>・受講者数の推移：08～09年度は158、469／42、264とばらつきが大き過ぎたので、クラスを増やし、1～2年次に限定の科目とした。その結果、10～14年度は67、156、187／64、169、159／92、153、141／112、164、170／131、105、96と安定した人数となっている。</li> <li>・日常点に関わるレポート等の確認作業が煩雑である。</li> <li>・定期試験は、初めは論述形式で採点が大変だったが、現在はマークシート方式で採点に関する負担は低くなっている。</li> </ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2外国語として開講されている「スペイン語」を加えたい。</li> <li>・現在は前期1クラス、後期2クラスの合計3クラスのみだが、将来的にはクラス数を増やしたい。</li> </ul>

(文責：神谷善弘／大阪学院大学外国語学部：ykamiya@ogu.ac.jp)

#### 付 記

本稿を執筆するにあたり、教務課およびランゲージセンターの事務職員の方々から、「ワールド・ツアー」に関する会議資料の提供と本稿に掲載した資料の作成に関する助言をいただいたので、ここに感謝の辞を述べさせていただきます。

また、「ワールド・ツアー」の提唱者であるお二人、フランス語の伊佐先生

と英語のケリー先生にも大いなる感謝の気持ちを伝えさせていただきたい。

さらに、「ワールド・ツアー」を担当している先生方、「ワールド・ツアー」を受講してきた3,000人強の学生の皆さんにも、以下の言葉を伝えたいと思う。

Danke schön

Merci

Thank you

謝謝

감사합니다